

## 「平成 27 年度 西宮市総合防災訓練」の実施について

### ～一人ひとりが大規模地震に備えるために考える訓練～

「平成 27 年度 西宮市総合防災訓練」を平成 27 年 11 月 5 日（木）（津波防災の日）に 1 部と 2 部に分けて実施します。

1 部は、市内全域で、地震発生時に自分の身を守るための安全確保行動をとる「にしのみやシェイクアウト訓練」を実施し、市民一人ひとりが地震から命を守り、けがをしないための動きを習得するとともに、防災意識の向上と継続を図ります。

2 部は、津門中央公園において、災害時に地域防災拠点として救援物資等の受入、集積、搬送機能を有する場所で、実際にその機能を運用する「地域防災拠点運用訓練」を市職員、防災関係機関が市民やボランティアと協働で実動します。

この訓練では、土砂災害現場からの人命救助訓練をあわせて実施し、職員など訓練参加者が大規模災害時に備えるために必要な知識や技能を改めて考える機会とします。

#### 1. 訓練の概要

実施日：平成 27 年 11 月 5 日（木）【津波防災の日】

##### 1 部 にしのみやシェイクアウト訓練

※安全確保行動（まず低く、頭を守り、動かない）をとる

時間：午前 10：00～10：05

場所：市内全域

対象：市内在住、在勤等の方、

特に市内の小学校の児童の方に可能な限り参加していただく予定

方法：・全国一斉に行われる緊急地震速報の訓練により、気象庁からの全国瞬時警報システム（Jアラート）を通じた緊急地震速報が発信

・本市内全域の防災スピーカー、緊急告知ラジオが鳴動

・参加者各自が、それぞれの場所で、約 1 分間、地震から身を守る「シェイクアウト訓練」を実施

##### 2 部 西宮市総合防災訓練 ～地域防災拠点運用訓練～

時間：午後 1：30～4：30

場所：津門中央公園（地域防災拠点） 津門住江町 3 番

対象：西宮市、西宮警察署、甲子園警察署、陸上自衛隊第 3 師団第 36 普通科連隊、兵庫県消防防災航空隊、神戸海上保安部 西宮海上保安署、西宮市消防団、西宮市機能別消防団、西宮市医師会、西宮市社会福祉協議会、西宮市赤十字奉仕団、生活協同組合コープこうべ、赤帽兵庫県軽自動車運送協同組合、NPO 法人日本レスキュー協会、日本災害救援ボランティアネットワーク、西宮建設協会、阪神水道企業団、今津地区自主防災会

18 団体（予定）（順不同）

- 方法：・上町断層帯地震により、本市に最大震度 7 の地震が発生
- ・地震発生後、3 日目に全国から続々と届く救援物資をボランティアとともに、受入、仕分、避難所への搬送の実動訓練を実施
  - ・土砂災害の多数発生を想定し、負傷者の人命救助の訓練を実施

## 2. 各訓練の要点

### 1部 にしのみやシェイクアウト訓練

#### ○地震から身を守る行動を慣習化するための訓練

平成 24 年度の「にしのみや津波ひなん訓練」からスタートしたこの訓練を、平成 26 年度に引き続き実施する。最終的には市民がラジオ体操のように、地震発生時に自然に行動できるように慣習化することを目指すものである。

### 2部 西宮市総合防災訓練 ～地域防災拠点運用訓練～

#### ○防災拠点の機能を実戦方式で運用する訓練

災害時に、救援物資の集配拠点となる津門中央公園（地域防災拠点）において、避難所生活で必要となる他都市等からの救援物資を実際に荷捌作業し、指定避難所等へ輸送する一連の流れを訓練する。

#### ○屋外を想定した各種体制の運営訓練

##### ①ボランティア受入体制の運営

通常屋内に設置する災害ボランティアセンターを、屋外に開設することを想定し、必要な資機材等の検証や、一連の流れを、災害時に運営を担当する市職員、社会福祉協議会と学生ボランティア等と実動する。

##### ②災害時医療体制の運営

屋外での救護所開設を想定し、必要な資機材等の検証や、一連の流れを、市担当局と医師会で、開設から運営までを実動する。

#### ○土砂災害を想定した人命救助訓練

地震により発生した土砂災害を想定し、現場からの人命救助を、消防局、兵庫県警、陸上自衛隊、市技術隊などが実動することで、救助技能の向上を図り、各々の役割および関係機関との連携を確認する。

#### ○各種情報通信の機能検証

災害時に本市が備えている情報通信機器であるデータ通信機能を活用した映像による情報共有、現場と本部間を携帯電話、PHS だけによる口答のみの情報共有を実践し、情報共有に必要な準備と機能について確認する。